資料－5④

みらいへの取り組み

令和５年５月２８日

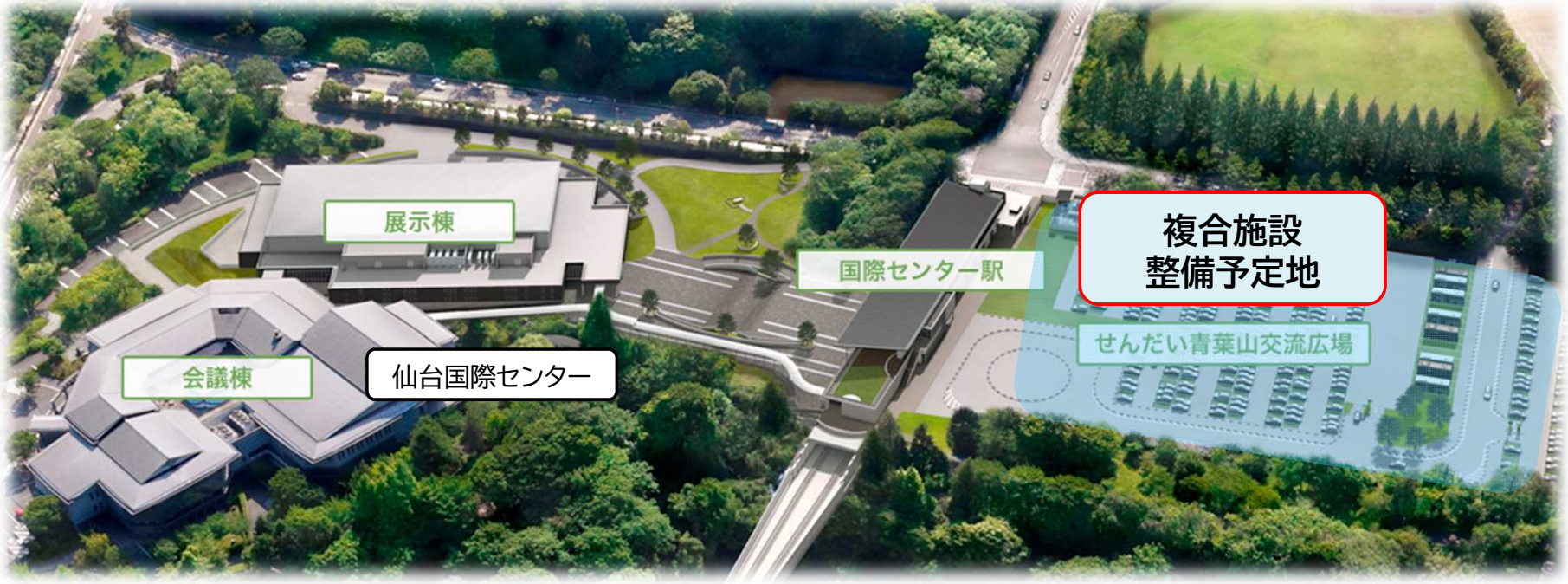
仙台市

今後の展開（災害文化の発信）

・震災をはじめとする様々な災害の経験と教訓を生かし、各地の防災力向上に貢献する「災害文化※」の創造を担う「中心部震災メモリアル拠点」に係る検討を進めており、「せんだい青葉山交流広場」への立地、及び「音楽ホール」との複合整備を決定した

・本年夏頃の複合施設基本構想の策定に向けて、検討を進めているところ

※災害文化：災害が起きても、それを乗り越える術を持った社会文化（防災・減災の取り組みを含む）



・東北大学などの研究機関や民間事業者、市民団体等の多様なステークホルダーと連携、協働のもと「災害文化」に係る発信事業と人材育成等も併せて進めていく

今後の展開（「仙台防災枠組2015-2030」の推進）

・本市では国際的な防災の指針である「仙台防災枠組2015-2030」が折り返し時期を迎えることを踏まえ、枠組採択の地として、東北大学災害科学国際研究所と共同で、その進捗状況について中間評価を実施した　　※「地方自治体レベルでは初の試み」

中間評価の結果（概要）

・枠組の掲げる目標（死亡者・被災者・経済的損失等）はすべて達成中

・風水害に限ると、家屋などの損壊や農業被害等が増加していることを確認

【今後の取り組み】

・防災環境都市として災害に強くしなやかなまちづくり、ひとづくりを引き続き進め、次世代に経験をつなぎながら、枠組のゴールに向けて推進を図る

・中間評価の取組みを、国連や国内外に共有し、世界の防災・減災の推進を図る